

idea

CONNECT × CONNECT

Twitter★http://twitter.com/#!/center_i

HP★<http://www.center-i.org>

いちのせき市民活動センターニュースレター アイデア

NEWS LETTER IDEA

September

2012

いちのせき市民活動センター情報誌「idea」は、
NPO・行政・企業の情報発信により、アイデアと
出合いの機会を創ります。

いちのせき市民活動センター

〒021-0881 岩手県一関市大町 4-29

TEL&FAX 0191-26-6400

Email center-i@tempo.ocn.ne.jp

せんまやサテライト

〒029-0803 岩手県町千厩字町 149

TEL 0191-48-3735 FAX 0191-48-3736

Vol.06



志民のための成長戦略⑤

エンカウンター

—平成24年8月18日(土) 13:30~17:30—



講師の
ジン・リキファシリテーション
後藤 真 さん

みなさんは、普段、自分自身を見つめ直し、新しい発見をする機会を作っていますか？今回の「エンカウンター」講座では、ワークショップという非日常の体験をすることによって、今まで気づけなかった「新しい自分」を発見し、その「気づき」を日常生活や活動に生かすことを目的として開催しました。

未知なる自分を知る

まず、参加者全員がお互いの顔を見渡せるように椅子を円型に配置。こうすることで安心感が生まれます。全員の名前、住所、仕事、今日どうすごしたかを確認した後は、「未知を楽しむフリートーク」と題し、「未知なる自分」を発

見するペアワークを行いました。2人のうち、1人が話を聞く側、もう片方の人が話をする側となり、7分間ずつ会話。話を聴く側は、「私はあなたのが知りたい」と質問をし、話をする側はその質問にひたすら答えるというものです。「7分間もの間、話が続きかな。」という心配の声もありましたが、聴く側が関心を持ちながら熱心に傾聴することで、話す側も安心して会話を楽しんでいる様子が見られました。

その後、4人1グループになり、2人ペアで話した内容について話し合いを開始。「自分の話を真剣に聴いてもらえて気持ちよかった」「どんな人が話しやすいと思いますか」等の意見や質問を交換し、相手の気持ちを理解し受け止める「傾聴」の役割について再確認。また、日常で見ている平面的な視点以外に、高い所、深い所から分析する2つの視点から自分を見つめる事で、新しい「気づき」を促します。

過去の自分から 未来の自分へ

続けて、「2012 これまでの私」として、今年1月〜8月までの自分の気分の浮き沈みを表す折れ線グラフを作成。「今までどんな日々を過ごしてきたか」を細かく振り返り、完成したグラフをグループ内で発表。グラフの傾きが、期間中ずつと上がりっぱなしの人もいれば、落ち込み気味の人もおり、人それぞれ様々なグラフが出来上がりました。インターネットや携帯電話が普及している現代の情報化社会の中では、このように自分が伝えたいことを直接話す機会が減り、相手を目の前にして言葉で気持ちを伝えるコミュニケーションが減少しています。ここでは、直接人同士が対話することで得られる「生身の体験」で気づきを体感します。

最後の実習では、「未来の自分に宛てた手紙」を書きました。平成24年12月31日の自分

へ、①ちゃんとねぎらう&ほめること②心からお礼を伝える③再会を約束すること。の3つの条件と、批判はしないという注意のもと、30分の間沈黙でひたすら手紙を書きます。手紙が完成した後にグループを作り、自分に手紙を書いてみて、どんな自分に気付いたか、もし年末にこんな手紙を受け取ったらどう感じるかについて話し合いを行いました。「普段は自分を見返すことがないので、新鮮な体験でした。」「自分をねぎらうと、良い気持ちになりますね。」などの意見を交わし、参加者は新たな気づきを発見していました。

非日常の体験ができた今回の講座では、意外と知らなかった自分に気付くことができましたのではないのでしょうか？また、人と対話する時に相手は「話しやすいな」と思うような話の聞き方について学び、普段の活動の各所で生かしていくことが望まれます。

- 2 | 志民のための成長戦略⑤
エンカウンター
- 4 | 地域コミュニティの活動紹介
花泉町金沢内沢集落
- 5 | 企業の地域づくり
(株) オヤマ
- 6 | 団体紹介
NPO法人
アートで明るぐいぎるかわさき
- 7 | 歩が行く-スタッフの体験レポート-
市民フェスタ12
- 8 | 10月のイベント・ボランティア情報

一関市内のNPO法人
市内31法人が活動中です。

- 1 藤沢町ボランティアセンター
- 2 北上川流域河川生態系保全協会
- 3 ケアセンターいこい
- 4 須川の自然を考える会
- 5 レスパイトハウス・ハンズ
- 6 一関文化会議所
- 7 一関ケアセンター
- 8 ワークハウス雲
- 9 里山自然学校 はずみの里
- 10 全国地域学習振興会
- 11 北上川サポート協会
- 12 グリーンハート
- 13 いわい地域支援センター
- 14 アートで明るぐ生ぎるかわさき
- 15 障害者への偏見と差別をなくす会
- 16 サン・スマイル
- 17 ねこの手クラブ
- 18 いわてコミュニティファンド
- 19 千厩まちかどケアセンター
- 20 いわて発達障害サポートセンターええ町づくり隊
- 21 いちのせき子育てネット
- 22 響生
- 23 わかば会
- 24 防災サポートいちのせき
- 25 とーばんふうどくらぶ
- 26 生涯支援センター岩手 日向ぼっこ
- 27 あゆみ
- 28 子育て支援いっすね
- 29 ファンスポルト一関
- 30 北上川流域連携交流会
- 31 グローバルヒューマン
(認証順で掲載しています)

9月の表紙



これは、いちのせき市民活動センターの新しい事務所の写真です。9月18日に新鮮館おおまち1階から4階事務所へ移転しました。スペースが広くなり、心機一転、さらに市民活動の情報発信・活動支援に努めたいと思います。

いちのせき市民活動センターニュースレターideaは、市民活動がアイデアを持ってNPOと行政や企業、市民との出会いの機会を創りだすことを目的とした情報誌です。センター情報をはじめ管内の市民活動団体情報や行政情報をお届けします。

花泉町金沢内沢集落

—集落の理想を目指して—

集落公民館長

岩渕 甚吉 さん



地域

コミュニティの

活動紹介

突然ですが、みなさんは「内沢集落新聞」をご存知ですか？内沢地域に住む人たちがまとまり、「良い方向に方向に動き出した」歴史と思い出がたまっていきます。56戸210人が暮らす花泉町内沢集落の公民館長と区長を兼任し、地域の新聞を作り続けてきた岩渕さんに、地域への想いを伺いました。

花泉町最後の記念

平成17年9月20日に行われた一関市の合併。それまで公民館活動をしてきたものの、人数が少なく、行事と言えば伝統の「大名行列」ぐらいだった内沢集落ですが「花泉町」として最後の記念に出てみよう」という集落の有志の方数名の提案で、花泉町で行われた「日本一の餅つき大会」への出場を決意。当初は、参加に対して消極的な意見もあったそう。しかし、いざ始まると、イメージカラーの黄色をあしらったハッピを作ったり、地域の子どもが踊りに参加したり、踊りを教えるため、お年寄りが参加したりと、地域の人達を巻き込んで参加する一大イベントに。

一回目の出場では惜しくも優勝を逃したものの、翌年から2年連続でグランプリを受賞。このときの盛り上がりは、その後の「花いっぱいコンクール」への参加、地域の方全員に対して行う甲辞の読み上げ、地域行事への子どもの参加、唄や踊りのコンテストへの出場などにつながり、盛り上がりは内沢集落から周辺の集落へと刺激を与えました。

地域に暮らす人を見守る

「内沢集落新聞」は月に一回発行され、平成24年の9月で76号目。地域で赤ちゃんが生まれた時、入学式、成人式、米寿のお祝いなどの節目には、岩渕さんが出かけて行き、許可を得て写真を掲載。老人クラブからの寄稿のほか、地域の人口、年齢、性別から地域の高齢化率を計算したグラフを作る事も。区長としての仕事をしていると、地域の行事やそこに暮らす人たちの様子が分かる半面、個人情報にも気をつけているといえます。新聞の発行を続ける理由について「あの時はこういうことがあったな、という思い出づくりや、

行事で顔を合わせたときの会話のきっかけになる」と岩渕さん。地域の人たちを見守る温かい眼差しが、新聞の持ち味となっています。

活動を続けるコツ

「こういう活動があったほうがいい、と共鳴してもらえる人、応援してもらえる人がいるからこそ出来ることです。」と岩渕さん。「人が集まらなければ物事は出来ないもの。だからこそ、地域の中に入って行く事、時間をかけて、みんなに顔と名前を覚えてもらう事から始めて、始めは自分はやりたいくない、と言う人にも、鉄砲づくりに、工作の先生や、踊りを教える先生役などをやって頂くなど、いいところを引き出していくうちに、私達もやろう、というものが生まれるといいですね。」と地域づくりの秘訣を語ります。区長と集落公民館長の兼任について「テストケース」と語る岩渕さん。持ち前の明るく前向きな考え方や素敵な笑顔で、これからも内沢集落の魅力を発信していきます。

企業の地域づくり ～生まれ育った地域へ 感謝の思い～



(株) オヤマ
代表取締役社長
小山 征男 氏

今回の、企業の地域づくり活動取材は、地域食材の安全と安心を守り、地域に根差す一関市室根の株式会社オヤマへお邪魔し代表取締役社長の小山さんにお話しを伺いました。

地域に『ありがとう』の 気持ちをこめて

昭和41年7月に「小山ブローラーセンター」の名称で創業した、(株)オヤマは、平成19年に創業40周年

を迎え、「地域に感謝の気持ちを表したい」という想いで、金色の風見鶏付き温度計・時計台のオブジェを寄贈しました。「何か、地域に役立つものをと考えていました。そして、室根という地域の話題にもなればと思うとともに気持ちを形として表現したかったのです。」と、当時の思いを同社取締役の小山さんは振り返りました。室根で生まれ育った小山さんの、ふるさとを大切にしている気持ちが伝わってきます。40周年を迎えてから、5年たった今も一関市室根町折壁地内のJR大船渡線月山下踏切に近い国道284号線付近の、記念モニュメントはキラリと光り、町の安全を見守っているかのようです。また、モニユメントの回りには、花壇があり、色とりどりの花々で一層明るさが増しています。この花壇は「いわいの里花壇」と名付け、3年前からは、花いっぱいコンクールに出場し初年度から最優秀賞を継続受賞しています。元々は、モニユメントの寄贈に伴い始めた小さな花壇も、従業員有志たちが、少しずつ手入れをして、今ではコンクールに参加出来るようになり入賞をきっかけに、毎年テーマを決めているとのこと。

地域で安心して子育てが できる環境づくり

市内でも珍しい、会社敷地内にある保育園。昭和55年4月に「こまどり保育園」を設置し、託児所ではなく通常の保育園として、従業員が安心して業務に従事できるよう保育士が子育て支援を行なっております。「開園当初は、従業員の子育て支援としておりましたが、現在では、地域の子どもたちもこまどり保育園に入園できます。」と、今年の入園式の写真をそつと差し出して見せていただきました。子どもたちの輝く笑顔とともに、小山社長も優しい笑顔です。季節ごとに行事があり、9月には運動会、とても楽しみにしている様子でした。また、現在は、祖父母が従業員で、孫が入園しているという場合もあり、「親子2代で、こまどり保育園を巣立ったご家庭もありますよ」との事。市内では、働きたいけど、子どもを預ける場所がないという親御さんの声も聞こえる中、社員のため、地域のために企業が運営する保育園の存在は親にとっても子にとってもまさに「安心」という絆が芽生

えるのではないかと感じました。

地域ブランドとして誇りを持ち、地域に感謝する気持ちをしっかり表現していきたい。地域の行事には、従業員個々が、積極的な参加をしながら、コミュニケーションを図り協力していきたい。若い世代が、少なくなっていることが現状だが、今後は、小さな地域で若い人たちを増やすことが出来る企業として取組んで行きたいと、今後の夢を語っていました。

近助の精神は いかなる時も

平成23年未曾有の被害が起きた東日本大震災。同社では、オヤマグループとして気仙沼市にも工場や直営店があり、震災翌日から炊き出しや従業員有志のボランティアを50名派遣（気仙沼市・陸前高田市）するなど迅速な対応を行なったと共に、売上の一部を気仙沼市へ寄附しました。経営理念でもある、人間性の調和は従業員ひとりひとりに指導がなされていることが感じられました。

団体紹介

～基本情報～

◆事業所

地域活動支援センター 工房てんとう虫
〒029-0202

岩手県一関市川崎町薄衣字諏訪前 97

◆電話&FAX : 0191-43-4733

◆法人理事兼所長 : 木村 静恵 様



木村 静恵 さん

「明るく生きる」をモットーに、アートを通じて地域交流

アートを通じて 地域へ情報発信

アートで明るく生きるかわさきは、地域の高齢者や障がい者の市民アート交流事業と、障がい者の自立と社会参加の促進をめざすことを目的として、平成17年2月に設立。法人事業の中心である「工房てんとう虫」は、一関市川崎町精神障害者家族会「かわさき虹の会」により平成14年8月に立ち上げられ、その後NPO法人が引き継ぎ、平成17年4月から設置・運営。工房の利用者は軽作業を通じて社会参加の促進をするとともに、アート創作活動でそれぞれの個性や思いを表現し、多様な作品を発表することで地域交流を深めています。法人理事兼所長である木村さんは、工房で働く前は市内の文房具店に勤務。平成12年から障がい者デイケア教室でアート活動を手伝い、その後スタッフとなり

ました。「初めて教室に来た時は、みなさんが描いた絵を見て驚きました。自分が大きな影響を受けました。」と当時の気持ちを振り返ります。

皆が楽しく交流し 繋がりを広げる

工房てんとう虫の活動日は、毎週月曜日から金曜日までの5日間。約14名の利用者が工房に集まり、アート作品製作を通じて楽しみながら交流を深めます。完成した作品は、全国の様々な展示会で展示・発表。オンラインの絵葉書やレターセット等は、川崎町の道の駅、イベント時に販売しております。

また、今年、工房てんとう虫の立ち上げ10周年を記念し、9月17日まで川崎公民館2階でギャラリーを開催。壁にずらりと並ぶ絵は、人や動物や風景が色鮮やかに描かれ、どの作品も作者

それぞれの持ち味が表現されており、空間を明るくしてくれています。

このようなアート製作活動以外に、お花見やスポーツ大会参加などの年間行事を通して利用者の心のリフレッシュを図る他、外部から依頼され、公共施設の清掃や草取りも行っております。外で活動をしていると、近所の方から「頑張ってるね!」「お疲れ様です!」と声をかけてもらうこともあり、利用者にとって活動をする大きな励みになっています。と木村さんは語ります。

続けて、「工房を通じて、利用者さん同士が友達として仲良くなり、楽しんで活動してもらうことが一番です。これからも今の状態を維持し、地域との繋がりを大切にしていきたい。」と笑顔でお話ししてくれました。



歩が行く

センタースタッフ、千葉歩の体験レポートです。



今回の歩が行くは、いちのせき市民活動促進会議インアーチ主催の『いちのせき市民フェスタ12』に参加してきました。インアーチは、各地域・分野で活動する市民団体の連携を促進し地域の課題を解決するため必要に応じて、共同で事業が展開できるように「話し合いの場をつくりたい」そんな思いがきっかけで平成16年に組織が誕生しました。



今回の歩が行くは、取材のベンをマイクに持ち替え、今年で7回目を迎える市民フェスタの司会を務めさせていただきました。当日、司会初体験の私は緊張の渦に巻かれていましたが、心配された天候にも恵まれ、絶好のイベント日和となり、たくさんの方々に支えられて、楽しい1日となりました。

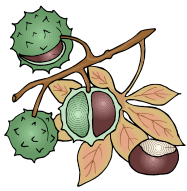


市内の活動団体は「福祉」「環境」「育児」など、異なる分野で活動をしていますが一関を思う気持ちは一緒。当日は、各団体が日頃の活動を紹介や発表をし、生産している製品・食品の販売のほか、太陽望遠鏡で太陽面観察ができるなど、普段体験できないことが盛りだくさんでした。



イベント会場
最後に・・・
打合せから準備・撤去作業など、すべて参加団体の皆さまのご協力のもとで開催することができました。深く感謝申し上げます。





イベント・ボランティア情報



いちのせき市民活動センターでは、一関市内で活動する市民活動団体や企業で行うイベントの情報やボランティア募集の情報をお待ちしております。

TEL & FAX 0191-26-6400 ☒ center-i@tempo.ocn.ne.jp



出前相談会

もりおか・いわて若者サポートステーションでは、若者たちの就職・自立支援を目的とした出前相談会を開催します。就職活動に対する様々な不安や悩みに対して、話をしながら解決の糸口を探ります。

日時：平成 24 年 10 月 6 日（土）
時間：10 時～16 時
場所：一関市防災センター
料金：無料
電話：019-625-8460
担当：佐藤・石亀



第二の人生応援セミナー

シニアが元気！地域も元気！「第二の人生応援セミナー」を開催します。

内容：◆第 1 部…「目標をもって、あきらめず、これからは人生本番！」講師／シニア元気笑学校校長 渡辺源治様◆
第 2 部…「仲間づくりと団体運営、県内の事例」「活動団体の紹介『若葉会』（奥州市）」
日時：平成 24 年 10 月 9 日（火）
時間：13 時 30 分～16 時
場所：一関文化センター 小ホール
申込&問い合わせ：019-606-1765
料金：無料
定員：100 名



創立 10 周年記念講演会

NPO 法人里山自然学校はずみの里では、創立 10 周年を記念して、講演会を開催します。参加を希望される方は、申し込みが必要です。

日時：平成 24 年 10 月 14 日（日）
時間：11 時～12 時 40 分
場所：花夢パル ドリームホール
（一関市花泉町花泉字伊勢沢 14-3）
講演：「里山における生物多様性と花泉地区」公益財団法人日本自然保護協会 高川晋一氏、法人事業別活動発表、活動紹介展
電話：0191-82-3857
主催：10 周年記念事業実行委員会



子育てサロン「バルーン」

子育てサロン「バルーン」では、ハロウィンパーティ・クリスマス会・七夕飾りづくりなど、親子で楽しめる様々な活動を行う仲間を募集しています。

日時：10/15、11/19、12/17、1/21、2/18
時間：10 時～11 時 30 分
場所：バルーンキッズ 2 階
（一関二校向かい）
参加料：1 回…100 円
年会費…500 円
持物：動きやすい服装
申込：必要（各回前日まで）
電話：080-5221-6087
担当：子育てサロンバルーン／野沢



お茶っこ交流会

一関社会福祉協議会では、一関地域にお住まいの、東日本大震災被災者の方々を対象に、ふるさとお茶っこ交流会を開催します。10 月は「いものこ会をしよう」を予定しています。

日時：平成 24 年 10 月 19 日（金）
時間：10 時～14 時
場所：磐井川堤防
電話：0191-23-6020
料金：500 円
申込：不要
持物：特になし
担当：一関市社会福祉協議会
地域福祉課／菊池・菅原・小野寺



ハロウィンパーティ 2012

一関世代にかける橋では、市内に住んでいる外国の方や地域の方の世代間で異国文化を通じての「ふれあい」を目的にハロウィンパーティを開催します。

前日までに飾り付け、ゲーム準備中心に活動し、当日はホーンテッドハウスや仮装大会を行います。

日時：平成 24 年 10 月 27 日（土）
時間：14 時 30 分より準備開始
場所：山ノ目公民館 創作室
電話：0191-23-9721
持物：仮装道具
担当：一関世代にかける橋



四合わせ袋 作り手募集

ひこばえを守り育て隊では、地域を超えて、時、顔、力、心を合わせてつくる「四合わせ袋（ハッピーポシェット）」を一緒に作ってくれる仲間を募集しています。

日時：各自の自由な時間
場所：各自の自由な場所
電話：0191-21-3086
報酬：売り上げの三分の二
申込：不要
持物：はぎれ（柄は自由）
担当：葉澤ちえ子



さくらなみき 自閉症美術館オープン

NPO 法人レスパイトハウス・ハンズでは、「Café & Gallery さくらなみき」をオープンしております。道路に面した 2 階は、誰もが立ち寄れるカフェとしてコーヒーおよびアイスクリーム等の軽食を提供し、9 月 9 日からは 1 階を自閉症美術館としてギャラリーをオープンしております。

場所：一関市中央町 1-1-4
電話：0191-48-3622
FAX：0191-48-3623
通常営業時間：11 時～18 時
休業日：日曜日、祝日



竹林の整備、 お手伝い希望の方募集

NPO 法人と一ばんふうどくらぶでは、竹林の整備のお手伝いを行います。竹林の伐採したまま、枝葉も落とさずに粉碎できます。直径 12 cm まで。粉碎したチップは竹林に敷いて循環させるほか、堆肥の材料や庭木の根元に敷いて草を抑えるなど活用できます。

料金：一時間 2000 円
（+機械運搬費 1000 円）
主催：NPO 法人と一ばんふうどくらぶ
住所：一関市室根町折壁字篠原 149-1
電話：0191-64-3439
担当：市嶋（事務局）